

国語一 2 2 (第 6 学年) 新聞記事から材料を収集し、提案する意見文を書く事例

【学習活動の概要】

1 単元名 自分の考えを提案する意見文を書こう		
2 単元の目標 自分の課題について調べ、考えを明らかにしながら集めた材料を効果的に使って、読み手に提案したい意見を書くことができる。		
3 評価規準		
【国語への関心・意欲・態度】		
・自分の考えたことを伝えたいという願いをもち、それが伝わるように筋道を立てて書き表そうとしている。		
【書く能力】		
・題材に関する情報を集めて自分の考えを明らかにしたり、その考えを支えるための根拠や事例となる材料を集めたりしている。		
・文章や発言を引用したり、自分の考えの根拠となる事実を表す図表やグラフを用いたりして、提案したい自分の意見が説得力をもって伝わるように書いている。		
・書き手の意図を踏まえながら文章を読み合っ、提案の具体性や明確さ、妥当性の面から見て改善すべき点を見付け、具体的に助言している。		
【言語についての知識・理解・技能】		
・文や文章には、いろいろな構成があることについて理解している。		
4 教材 教科書教材 (意見文例)		
5 主な学習活動		
(1) 単元の指導計画 (11 時間)		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第 1 時	○集めた新聞記事から考えたことや生活の中で気になっていることについて話し合う。 ○記事からどんなことを強く感じたか、どうすべきだと考えているかについて現時点でまとめ、構想メモをつくる。 <b>本時</b>	○自分の意見をもつために、常時活動として気になる新聞記事を集めるようにする。また朝の会で記事に対する自分の考えを述べる活動を行い、互いの意見を聞き合う場面を設定する。
第 2 時	○必要な資料を集めながら考えたことを基に、具体的に提案することを明確にしていく。 ○引用する記事を、目的を明確にして選択する。	○生活の中の課題をとらえて身近な人に改善のための提案をする意見文を書くことを確認する。
第 3,4 時 第 5,6 時	○自分の意見文の具体的な構成を考える。 ○構想メモを見直し、必要な資料を吟味し、不足しているものを集め、自分の考えを一層明確にしていく。	○構想メモを繰り返し見直し、自分の考えがより明確なものとなるようにしていく。
第 7,8 時	○提案する内容やその根拠が明確に伝わる書きぶりを考えながら意見文を書く。	○自分の提案が明確に伝わるよう文末表現や接続語の使い方に注意する。
第 9 時	○書いた意見文を読み返し、意見とそれに基づく具体的提案について根拠や事例の選択の妥当性などの点から推敲する。	
第 10 時	○意見文を発表し合い、資料の使い方の妥当性や構成の効果について助言し合う。	○推敲の際に用いた観点を基に、書き手の提案が明確に伝わるかどうかを助言する。
第 11 時	○助言を基に効果的に書けたところを確かめたり、自分の課題を一層明確にしたりする。	
(2) 本時の学習		
①意見文の構成のモデルを示し、構想メモのイメージをつかむ。 (構想メモの内容：伝えたい自分の考え、必要な資料、構成など)		
②記事からどんなことを強く感じたか、どうすべきだと考えているかについて今の自分の考えを短く記述する。		
③自分の考えを述べるための構成を書き、構想メモを作成する。		
④構成の中で、自分の考えの根拠となる資料や事実を表す資料としてどのようなものが必要か考え、メモさせる。その際、資料の目的(～を伝えるため)を明確にしていく。		
⑤構成メモを基にして、意見を伝えるための構成として効果的になっているかペアで意見を交流する。特に、伝えたい意見と資料の種類や内容が合っているかに着目する。		
⑥自分の構成メモを見直し、修正する。		

## 【解説】

### 【指導事例と学習指導要領との関連】

- 小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「B書くこと」の指導事項「ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。」「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。」とを取り上げて指導するものである。

その際、「B書くこと」の言語活動例イに示す「自分の課題について調べ、意見を記述した文章」を書くことを通して指導することにより、指導の効果を高めた事例である。

- 「意見を記述した文章」を書くことについて

言語活動例に示す「意見を記述した文章（意見文）」を書くためには、述べようとする自分の意見を明確にしていくとともに、その意見を支える根拠や事例を効果的に位置付けて構成や記述を工夫していくことが求められる。

また、意見を述べる場合、その目的や意図によって、例えば自分の立場や考えを相手に伝え、理解してもらうことを主眼とする「主張」、読み手に具体的な行動を促す「提案」、異なる立場や考えをもつ相手や考えを決めかねている相手に対して、自分の考えに賛同してもらうことを意図する「説得」など、多様な姿として具体化される。

述べようとする自分の意見が一面的なものにとどまっていないか、異なる意見や立場の読み手に対しても納得してもらえる根拠を示すことができているかなどを検討しながら、書く目的や意図を明確にして構成を考えたり記述したりすることが重要になる。

### 【言語活動の充実の工夫】

#### ①自分の意見をもつための課題設定の工夫

国語科の授業以外にも日常的に取り組む活動（常時活動）として新聞を読み、気になる新聞記事を集める活動を取り入れている。こうした活動を布石として行うことにより、児童が自分の意見をもつきっかけを得て、無理なく意見文の課題設定を行うことが可能となる。

この他に、例えば環境問題や人と人をつなぐ言葉遣いの在り方など、児童が関心をもつようなテーマの本を学級文庫にそろえておいて、自由に手に取れるようにするなどの支援も有効である。

#### ②自分の考えを明確にしていく学習過程の工夫

意見文を書く学習の過程において、自分の意見を見直しながら、より明確なものにしていくことが重要になる。そのため、課題設定の段階のみならず、取材、構成、記述、推敲、交流の学習過程を貫いて、資料の見直しや不足資料の収集、ペアで意見交流、助言し合う活動など、絶えず自分の考えを見直す場面を位置付けている。

また、課題について考えて、解決策を「提案」という目的や、その提案に基づいて読み手に具体的な行動を促すという意図を位置付けることによって、自分の考えと具体的提案とのつながりや、提案の妥当性、説得力などについて考えることができるようにしている。

#### ③意見文の構成上の特徴を押さえて構成する指導の工夫

文章構成の指導においては、どのような種類の文章を取り上げて指導するのかを明らかにすることが重要である。本事例においては、意見文の中でも「提案」するための文章を書くこととなる。こうした文章の構成上の特徴を踏まえ、自分の考えや具体的提案とそれを訴えるための文章の構成を「構想メモ」にまとめ、構成について繰り返し見直す学習活動を位置付けている。また、記述後の推敲場面のみならず、構成の段階でも相互評価を取り入れ、自分の考えを効果的に伝える構成を工夫できるようにしている。

なお、構成の指導に当たっては、既習の「読むこと」の学習における説明的な文章の構成についての指導と関連させて指導することが有効なものとなる。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ④、⑤